

行政視察等報告書

令和6年5月20日

米子市議会議長様

（会派の場合）

会派名 公明党議員団

代表者氏名 今城 雅子

提出者氏名 今城 雅子

（議員の場合）

議員名



下記のとおり報告します。

記

項 目	☒ 現地調査 ☒ 行政視察 ☐ 要請・陳情活動 ☐ 研修会への参加 ☐ 会議への参加
参 加 者	今城雅子 津田幸一 矢田貝香織 徳田博文
期 日	令和6年5月7日から 令和6年5月9日まで
〔概 要〕（年月日・場所・内容） 5月7日 田川市行政視察 「補聴器購入助成費について」 5月8日 大牟田市石炭産業科学館・宮原坑 見学 5月8日 大牟田市行政施策「単身高齢者のすまいの確保について」 5月9日 玉名市行政視察 「橋梁の老朽化対策について」	
〔所 感〕 別紙に記載	
経 費	旅 費 @ 63,290 円 × 4 人 = 253,160 円 その他（お土産代） @ 7,560 円 合 計 260,720 円

所感① 福岡県田川市 令和6年5月7日（火）

「補聴器購入助成費について」

説明者；福祉部 水上郁子 福祉部長
西 敦子 高齢障がい課長
野見山繁基 高齢障がい課長補佐
市村 績 高齢障がい課 障がい者支援係長

障がい児者の補装具としての補聴器購入費等について、田川市の市として独自に助成制度を拡大して取り組まれていることについて、先進的な事例として、背景やその内容について行政視察をさせていただいた。

経緯として、平成18年度の「障害者自立支援法」施行により、「補聴器助成支援」は身体障害者手帳等の所持者に限られていたことから、手帳交付の基準とならない人は「障害者自立支援法」に基づく支援を受けられなかった。

しかし、当該基準を満たさなくても就学や就職において不自由を強いられ、社会参加を制限されながら日常生活を送る人もいる。障がいの度合いの軽い人であっても、安心して生活が送れるまちづくりを目指す必要性から、市として「社会参加事業としてできることはないのか」との検討を重ねて、平成19年1月から「社会参加事業」として、「軽度難聴者補聴器購入費助成事業」を実施することとなった。

その後、福岡県において軽度・中程度難聴児に限定した補助事業を開始したことから、田川市では平成29年度から「軽度・中程度難聴児補聴器購入費助成事業」を実施している。

田川市の事業は、その成り立ちにおいて、身体障害者手帳を持っていないことで日常生活の不便さを感じさせてはいけいない。軽度・中程度難聴者であっても、安心して社会参加できるように「身体障害者手帳の交付」の有無によらず、聴力レベルにより対象者を決めている。その考え方において田川市は英断をされたのだな、と感じた。

私たちは、「高齢者の軽度・中程度難聴」は認知機能への影響が大きいことから、認知症予防としての補聴器購入費助成の取組みの大切さを感じ要望している。しかし、先進地の田川市でも、高齢に伴って聴覚に支障をきたすこと、それにより認知症予防のために、この事業を拡充するということは困難とのことであった。

本市で、高齢者を含めた軽度・中程度難聴者の「社会参加支援」を、具体的にどのように行っていくのか、今後の課題であると強く感じた。

所感②-1 福岡県大牟田市岬町 令和6年5月8日（水）

「大牟田市石炭産業科学館見学」

大牟田市が石炭産業による発展と人口増加を遂げ、日本の産業革命に寄与した歴史の中で、かつての炭鉱労働者と現在の単身高齢者とは、どのような関連があるのか現地見学も行った。

所感②-2 福岡県大牟田市 令和6年5月8日(水)

「単身高齢者のすまいの確保について」

説明者；都市整備部 櫻木慎二 建築住宅課長
原田真宏 建築住宅課 空家対策担当主査
西山妙佳 建築住宅課 空家対策担当
牧嶋誠吾 大牟田ライフサポートセンター
大牟田市居住支援協議会事務局長

まず、単身高齢者のすまいの確保という内容であることから、福祉部門での取組かと感じていたが、実は大牟田市では都市整備部・建築住宅課による空き家対策として取り組まれている。

背景として、市営住宅での男性の独居高齢者の死亡退去後の住宅明け渡しに際して、身寄りのあるなし、また生活保護であるなしにかかわらず、死亡退去では税金を使って残置家財道具の処分が必要となる事例があり、高齢者が増えるということは、このような状況が起こってくるという課題が見えてきた。市内では介護や不動産事業者それぞれの現場で同様な課題があるのではないかと市の共通課題の解決のためのワークショップを立上げ、支援の仕組みつくりのために課題の見える化を行ってきた。

ワークショップを通して、不動産事業者は孤独死やトラブルを心配し、借りる側では障がい、認知症、保証人がいないなどの理由から住宅を確保できない。また、高齢者は退院後に適切な住宅や行き場がないという課題もあり、在宅での福祉サービスは「住む場所がある」からこそ成り立つため、このような課題解決に市内に3000件ある空き家を活用する取り組みを行うこととした。

まず、市内全域で空き家の全戸実態調査を行い、市内での空き家の状況をすべて把握した。平成28年の調査から、わずか三年後の令和元年の調査ではB・Cランクの増加が著しく、このランクを増やさないためにどうするのか？が市の課題と対策となる。令和3年から、NPO法人大牟田ライフサポートセンターと協働で、断らない相談体制として年3回程度の相談会を実施。実態調査を元に所有者へのお知らせ、アンケート回答者に対して個別連絡を丁寧に行い、希望に添った空き家の予防・保全の相談を通したマッチングにより、高齢者のすまいの確保ができるようになった。

高齢者をはじめとする住宅を必要とする人は低所得者が多いことから、家賃を低廉にするため、所有者の年間の固定資産税相当となる程度の家賃にすること。日常の見守り等は支援関係者とNPO法人大牟田ライフサポートセンターが担い、賃借者はNPO法人への年会費ともしもの時の後処理を依頼するための保険料とで、月額約1万円から2万円の家賃になるよう設定されている。

今後の課題としては、この取り組みに活用できる住居戸数の増加を図る。また、複雑化・多様化する高齢者世帯等へのアセスメントができる人材の確保・育成。とのことである。

本市においても、高齢者世帯等の住居の確保、また、空き家の対策は待ったなしの状況である。両方の課題は非常に関連が深いことから、まずは、正確な市内全域での空き家全戸実態調査を実施し、福祉、住宅、まちづくりの視点での課題解決への対策を急ぐ必要を強く感じた。

所感③ 熊本県玉名市 令和6年5月9日(木)

「橋梁の老朽化対策について」

説明者；建設部

田上幸二 土木課長

木下義昭 土木課長補佐(橋梁メンテナンス係長)

公共インフラの一つである橋梁の点検。通常なら専門のコンサルティング会社に点検を発注するところを、「市のDIY」と位置づけ、市職員で日常的に管理・点検・補修まで行う。全国でも「手づくりメンテナンス」として国土交通省から事例紹介されている玉名市の橋梁老朽化対策について行政視察を行った。

国では、2012年12月に発生した中央自動車道(上り線)笹子トンネル内の崩落事故を契機に、すべての橋梁やトンネルを5年に1回点検するよう自治体に義務付けた。玉名市でも橋梁の現状把握をしようとしたが、2016年3月時点で市道の橋梁823橋のうち点検済みは2%の17橋。点検すべき橋の基本台帳もない。

国への報告のタイムリミットが迫る中、2016年4月には熊本地震が発災。最大震度6弱を経験。災害復旧が優先される中で、橋梁メンテナンスサイクル(点検→診断→措置→記録)を担う人材(業者も監督員も)がいないという危機感から、玉名市の課題解決には「措置の確実な進捗」こそが最も重要で、そのために財政部局および上司に対して、メンテナンスの必要性和取組の効果等を細部まで説明し、独自の記録表を用いて取組の効果を『見える化』し実績を報告した。

「措置の確実な進捗」のため、廉価で効果的な措置手法として「直営点検」を実施。しかし、構造や劣化に精通していない職員が安易に直営点検を行っても、実際の補修工事等でつまづくことになる。そうならないよう、職員育成の教育ツールの一つとしてDIYでの取り組みを立案・実行している。橋梁メンテナンスには、技術力を要する職員の関与が有効であることから、実際に携わる職員の技術力を担保する一つとして、道路橋点検士、コンクリート診断士や、断面修復材は現場練りのため、コンクリート標準示方書を手本としてコンクリート主任技士等の、実際に現場に必要な資格取得を自己研鑽としている。

玉名市での取組みにエビデンスを確保するために投稿した論文は数多くあり、その一つは土木学会(日本の土木の最高峰の学会)の最高位の論文「土木学会賞論文賞」を受賞されている。しかし、玉名市では、私たちは優れたことはしていない。私たちは自分達の管理施設を自分達の手、目、鼻、耳、手を使い観察し、自分達の頭で悩み、考え、自分達が持つ工夫力を最大に発揮して最善を尽くす努力をしているだけ。

本市が玉名市と同じ取り組みをするのは困難であるが、わが市の橋梁メンテナンスの課題が明確になっているのが基本で、どうすれば「わが街の橋梁の長寿命化と安全を担保できるか」を主体的に日々考え実践・継続することの重要性を強く感じた。

行政視察行程（会派：公明党議員団 4名）

月 日	行 程	宿 泊 先
5 / 7 (火)	7:35 9:47 10:11 11:42 12:47 13:45 13:55 13:56 13:58 14:05 14:07 (2分) 伯耆大山駅 ===== 岡山駅 ===== 小倉駅 ===== 田川伊田駅 * 伊田駅/西鉄バス == 田川市役所/西鉄バス * 田川市役所 JR 特急やくも6号 JR 新幹線さくら549号 JR 日田彦山線・田川後藤寺行 徒歩 西鉄バス・烏尾トンネル―飯塚―御商団地 天神行 徒歩 田川市行政視察 午後2時30分から午後4時00分まで 【議会事務局】 ☎ : 0947-85-7170 【調査項目】補聴器購入助成費について 17:16 17:36 17:39 17:50 17:53 18:21 18:24 18:42 田川市役所 = 田川後藤寺駅 == 新飯塚駅 == 桂川駅 == 原田駅 == 久留米駅 タクシー JR 後藤寺線・新飯塚行 JR 筑豊本線快速・博多行 JR 筑豊本線・原田行 JR 鹿児島本線区間快速・久留米行	昼食：小倉駅周辺 宿泊：久留米 ステーションホテル ☎ : 0942-36-1122
5 / 8 (水)	8:39 9:15 (1分) 9:40 9:46 (1分) 9:49 久留米駅 == 大牟田駅 * 大牟田駅西口/西鉄バス == 帝京大学福岡キャンパス/西鉄バス * 大牟田市石炭産業科学館 JR 鹿児島本線・荒尾行 徒歩 西鉄バス・9・直行 (帝京大学福岡C行) 徒歩 大牟田市石炭産業科学館見学 【石炭産業科学館】 ☎ : 0944-53-2377 (福岡県大牟田市岬町6-23) (7分) 11:40 11:46 11:48 (1分) 11:49 (4分) 大牟田市石炭産業科学館 * イオンモール大牟田/西鉄バス == 大牟田駅西口/西鉄バス * 大牟田駅 * 大牟田市役所 徒歩 西鉄バス・8・普通 (大牟田駅西口行) 徒歩 徒歩 大牟田市行政視察 午後2時00分から午後3時30分まで 【議会事務局】 ☎ : 0944-41-2800 【調査項目】単身高齢者の住まいの確保について	昼食：大牟田市内 宿泊：司ロイヤル ホテル ☎ : 0968-73-8888

旅費計算表

令和6年5月7日 ～ 令和6年5月9日 (2泊3日)

月 日	区間	鉄道路線 名	区 間 数 キ ロ 数	目的地までの 数 キ ロ 数	運 賃	グリーン	急 行 料 金		日 当	宿 泊 料	
							特 別	新 幹 線	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
5/7	伯耆大山駅 ～ 岡山駅	JR	154.3		8,660		2,530		1,500		7,380
(火)	～ 小倉駅	JR	374.8					4,500			
	～ 田川伊田駅	JR	33.5								
	田川後藤寺駅 ～ 久留米駅	JR	57.8		1,310						
5/8	久留米駅 ～ 大牟田駅	JR	33.6		660				1,500		13,300
(水)	大牟田駅 ～ 玉名駅	JR	21.1		480						
5/9	新玉名駅 ～ 博多駅	JR	90.4		10,170				1,500		
(木)	～ 岡山駅	JR	442.0					4,950			
	～ 伯耆大山駅	JR	154.3				2,530				
計	議員旅費			60,970	21,280	0	5,060	9,450	4,500	0	20,680
	随行旅費			0							

出席議員 今城議員、矢田貝議員、津田議員、徳田議員

議員旅費 60,970 × 4名 = 243,880 円
 タクシー代 1,000 円
 入館料 420 × 4名 = 1,680 円
 お土産代 × 3箇所 = 7,560 円
 取扱料 1,650 × 4名 = 6,600 円
 合計 260,720 円

(5/9ホテル⇒玉名市役所)
 (5/8大牟田市石炭産業科学館)

○5/9新玉名駅～博多駅間、実際は新幹線つばめ利用だが、乗車区間100km未満のため、特急料金2,090円は対象外(自己負担)
 ○5/8の宿泊料15,900円だが、上限額13,300円のため超過した2,600円は自己負担

路線バス代は日当対応

福岡県田川市、福岡県大牟田市、熊本県玉名市
 公明党議員団会派行政視察